

H30 年10月2日～11月20日(市内18地域で実施)

○家庭学習

- ・宿題が少ない
- ・自学ノートの意義が不明
- ・そもそも家庭の役割が認識されていない。低下している
- ・PTA、子ども会の活動が停滞
- ・宿題に保護者もかかわること。

○幼児教育の充実(生活・学習習慣、社会規範)

- ・幼児期での躾、ルールを守ることなどは家庭がしっかりとすべき。
- ・小学校入学後、教室をうろうろしたり、話を聞けなかったりでは学校の先生も大変

○「地域総がかり」で子どもを育てる環境づくり

- ・地域のOB等が仕事のことや地域への思いを語る機会があるとよい。

○教職員の「ゆとり」が大切

- ・退職教職員の採用

○放課後の児童対応

- ・放課後教室は、親子ともどもの学びの場となっている。

○小中接続

- ・中学にあがると段々と成績が落ちる
- ・小学校は丁寧、中学校は荒い
- ・中学、高校に行くに従い学力差が大きくなる

○地域と学校

- ・地域から人を呼ぶような学校にすればいい。
- ・子どもとの顔のわかる関係づくりが必要
- ・地域との交流の場を増やす
- ・地域の伝統行事や祭りに積極的に子供たちを参加させたい。ふるさと教育
- ・小学校であった交流が中学校で切れる。
- ・学校の情報を地域にもっと発信する必要がある。
- ・地元の祭りを総合学習に取り込めないか。
- ・持続可能な地域にするために、地域の特色とリンクした取り組みが必要

○地域と家庭

- ・他人の子でも叱ることのできる地域が良い。

○特色ある学校づくりが必要

- ・小規模校ならではの魅力づくりが必要。
- ・逆に小規模校を希望する人もいる。
- ・小さな小学校だからこそスゴイ！という点を研究すべき。

○部活動

- ・大田でクラブチームを作りいろんなところから集まるようにすればいい。
- ・地域の人をもっと活用すればいい
- ・中学校連合でできるようにすればいい

## ○子どものゆとり

- ・授業が遅くまであるので、子供同士で遊ぶ時間がない

## ○高校

- ・ボランティア活動の部活がある。
- ・地域の特色を生かした地学科がある学校
- ・大田高校は、全国から学びたいと思える特色ある学校に
- ・邇摩高校は、自由な発想をもっと伸ばせる学校に。農林大学校との連携。

## ○授業

- ・インプットからアウトプットに
- ・子供たちが自分の考えを発言し、伝える場をつくる。
- ・子供たちが意見を出しやすい雰囲気づくりが必要
- ・本物と触れ合う機会など、既存の授業スタイルを壊す必要がある

## ○教員の質の向上

- ・先輩後輩のつながりを強くする必要がある。
- ・業務改善が必要
- ・魅力ある教師を採用する

## ○体験活動

- ・学ぶ楽しさは学んだことが実生活に結び付いたとき。
- ・体験活動の拡充
- ・魅力的な大人とのかかわり
- ・机上ではなく体験を通して学んでほしい
- ・子供の自由な発想を伸ばす教育。そのためには体験が必要。学校から地域へ飛び出す。

## ○競争心

- ・学校も成績に対して危機感がない。学校ごとの成績を公表しては
- ・個々の現時点の順位を明らかにし、競争原理を使って順位を上げていく。

## ○校区外就学

- ・保育士不足で地域の保育園に通えず、地域外の保育園に通うことによって校区外就学する例がある。校区外認定の見直しが必要。

## ○親学

- ・親の層を育てる必要がある。大人自身のつながりの姿を子供にも見せる必要がある。

## ○小中学校の違い

- ・小学校と中学校は分けて考える必要がある。小学校は地域の拠点として、中学校は様々な選択肢が多いほうがいい。